

施策名	行政評価 施策体系	水とみどりをはぐむまち	施策 統括課	環境政策課	氏名	町田孝弘
政策名	施策体系	まちをつくる	施策 関係課	道路下水道課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

- 市内全域
- 公共用水域

意図(対象をどう変えるのか)

- みどり豊かなまちになる
- 水量及び水質を向上する

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 市内面積	km ²
イ 公共用水域	km
ウ	
エ	

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称	単位
ア みどりが多いまちだと感じる市民の割合	%
イ 湧水の測定地点における水質基準(環境基準)達成率	%
ウ	
エ	
オ	

2 第2次基本計画期間(平成23~27年度)内における取組内容

体系	具体的な取組内容
みどりの確保	屋上緑化・緑のカーテンなど、公共施設の緑化を行うとともに、民間の建物でも進めていきます。私有地の緑化の推進を図ります。青柳崖線や城山公園等の地域の自然と歴史を受け継ぎ、みどりを保全します。農地保全の取組を進めます。
水量の確保	雨水浸透ますの設置促進等により、地下水の保全(雨水浸透の促進)を行います。
水質の維持	水質の調査・監視を行い、現在の水質基準を維持します。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値

単位		数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象指標	ア	見込み値						8.15	8.15	8.15	8.15
		実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15		
	イ	見込み値			30	30					
		実績値	30	30	30	30	30	30	30		
成果指標	ア	成り行き値				36.2	34.2	32.2	30.2	28.2	26.2
		目標値				41.0	43.8	46.6	49.4	52.2	55.0
		実績値	52.5		38.2	44.9	47.8	48.9	45.4		
	基本計画における 施策の目標設定の根拠			第1回国立市市民意識調査においては、52.5%の市民が「みどりが多いまちだと感じる」と回答していることから、この水準を上回ることを目指し、目標値を設定しました。							
イ	成り行き値				100	100	100	100	100	100	100
	目標値				100	100	100	100	100	100	100
	実績値	100	100	100	100	100	100	100	100		
基本計画における 施策の目標設定の根拠			現状値として達成率が100%であるため、その状態を維持することを目標としました。								
ウ	成り行き値										
	目標値										
	実績値										
基本計画における 施策の目標設定の根拠											
エ	成り行き値										
	目標値										
	実績値										
基本計画における 施策の目標設定の根拠											
オ	成り行き値										
	目標値										
	実績値										
基本計画における 施策の目標設定の根拠											

事務事業数		本数	13	13	13	13	13	12	13		
事業費	国庫支出金	千円					0				
	都道府県支出金	千円		17,580		2,339	2,379	310			
	地方債	千円					0				
	その他	千円				1,593	1,589				
	一般財源	千円	165,179	160,556	135,819	121,450	119,745	116,499	119,586		
	事業費計(A)	千円	165,179	178,136	135,819	125,382	123,713	116,809	119,586	0	0
人件費	延べ業務時間	時間	9,385	9,278	11,490	14,990	13,160	12,200	16,650		
	人件費計(B)	千円	46,925	46,390	57,450	70,150	61,000	58,000	62,200		
トータルコスト(A)+(B)		千円	212,104	224,526	193,269	195,532	184,713	174,809	181,786	0	0

4 施策の現状

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?

みどりは、身近な自然とのふれあいや安らぎ、冷涼な空気を生み出す憩いの場の提供等、市民生活にとって不可欠なものであり、また、環境保全、防災、レクリエーション、都市景観等の面でも重要な役割を担っています。しかしながら、近隣市と同様、都市化の進行により、農地を含む市内の緑地面積は減少傾向にあります。
 こうした状況を真摯に受け止め、また、既存のみどりへの取組みを自治体共通の課題としてとらえることとし、平成22年5月に東京都・区・市町村間で緑確保の総合的な方針が策定されました。これを受け、具体的な施策として、平成24年3月に崖線の保全に向けてのガイドラインが策定され、それに基づき、崖線の保全に努めていくこととしています。
 湧水については、冬期を中心として水量の低下がみられるため、今後も引き続き雨水浸透ますに代表される地下水の水量を確保する取組みが求められます。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

府中用水を環境型用水路として、通年通水を行うことや、崖線等の樹木の保全などの要望がある。
 いっぽうでは、崖線等の樹木に対する近隣住民からの各種(落葉や日陰)苦情も多くなってきている。
 水田農家の減少により、用水路の維持管理が行き届かないことによる苦情が市に寄せられている。

5 25年度の評価結果

(1) 25年度行政経営方針の取組状況

25年度行政経営方針	施策の取組状況
東京都の歴史環境保全地域に指定されている城山を中心に、古民家や湧水・用水など南部地域の魅力を最大限に活かし、プレーパークや子どもの居場所づくり、農や自然にふれあう貴重な体験の場など城山地区を里山としてゾーニングする「城山地区里山プロジェクト」として推進し、事業を支える多世代、多主体の人々による里山コミュニティの形成につなげる。 花と緑のまちづくりを市民との協働で具体化して行くため、事業所や市内で活動するNPO等のネットワークを構築し、平成25年度は、市民と協働で大学通りの緑地帯の維持管理を行う。	「城山の里山づくり基本方針」に基づき、「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深め、里山コミュニティの構築に努めた。 市民と協働で「花と緑のまちづくり協議会」を発足し、市内各所での各種事業を計画・実施した。 崖線の保全の取組みについては、関係8市で構成される崖線協議会による講演会やウォーキングラリーなどのイベントを開催し、市民への啓発に努めた。 平成25年度に設置された雨水浸透ますは、設置助成金により2基、窓口指導により1385基、合計1387基設置された。

(2) 施策の成果実績把握と評価

成果指標目標値達成度(目標値と実績値との比較)	
成果指標ア 【みどりが多いまちだと感じる市民の割合】	
<input type="checkbox"/> 25年度目標値を達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果向上・維持 <input checked="" type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果低下)	
成果指標イ 【湧水の測定地点における水質基準(環境基準)達成率】	
<input checked="" type="checkbox"/> 25年度目標値を達成 <input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果低下)	
成果指標ウ 【	
<input type="checkbox"/> 25年度目標値を達成 <input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果低下)	
成果指標エ 【	
<input type="checkbox"/> 25年度目標値を達成 <input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果低下)	
成果指標オ 【	
<input type="checkbox"/> 25年度目標値を達成 <input type="checkbox"/> 未達成 (<input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果向上・維持 <input type="checkbox"/> 24年度実績値と比較し成果低下)	
時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)	C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)
他自治体との成果の比較 A(かなり高い) ~ E(かなり低い)	C:他自治体と比べてほぼ同水準である
背景として考えられること ア 開発行為などにより、田畑や屋敷林などが減少したことによるものとする。 イ 引き続き達成した。 意識調査の結果は低下したが、湧水の水質基準は達成した。 他自治体と比べ、一人当たりの公園面積が少ないが、貴重な湧水の保全に努めている。	

(3) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)

「みどりが多いと感じる市民の割合」は平成24年度に比べ3.5ポイント減少し、平成25年度目標値を達成できなかった。
 しかし、里人会議の開催や、花と緑のまちづくり協議会の発足など、緑の保全や創出に向けた新たな取組みを開始することができた。
 雨水浸透ますについては、着実に設置個所が増加しており、地下水の保全に貢献している。

6 施策の課題・今後の方向性

崖線の緑の保全、確保として、崖線の公有地化を推進していくことが課題である。
 「市民による公園等の管理運営事業」をさらに進めていく。
 民有地の緑の減少を、どのように食い止めていくかは大変難しい課題であるが、今後、展開していく予定であるコミュニティーガーデンなどの事業を活用し、少しでも緑の保全、緑化の推進に努めたい。
 「城山の里山づくり基本方針」に基づき、「里人会議」を開催するとともに、各種事業を進めていく。